



21 塚田秀鏡《観瀑図巻煙草箱》一点

明治四十三年（一九一〇）

銀・四分一・赤銅／高彫／色絵・象嵌

一四・九×一一・〇×四・一

二人の遊行僧が見晴らしのよい高台に立ち、雄大な瀑布を眺める様子を絵画的に蓋表に表した巻煙草箱である。東洋絵画の伝統的な画題である高士観瀑図を淵源とする図様であろう。

滝の図ということで前掲No.20の香川勝廣の巻煙草箱とも相通じる部分もあるが、同じ加納夏雄門下とはいえ、各所に二人の作風の違いをうかがうことが出来る。香川は画面をいくつもの地板に分割して複雑な構成にした上、側面にも片切彫をして箱全体で作品の世界を形成した。それに対して、塚田は画面の右より約三分の二を四分一、残りの左側を銀として二分割し、側面には全く彫りをほどこさず、蓋表のみを裝飾する。また、香川は大胆に滝を盛り上げて肉厚な表現をしたが、塚田はそこまでせず、白布を引いたような滝の清浄さを強調するため、あえて加飾を抑え余白の空間を活かしている。絵画を柴田是真に学んだ塚田らしく、彫金技術を見せるだけでなく、一つの絵画面面として見ても鑑賞に堪えうる作品に仕上がっている。本作は明治四十三年十一月の第四十五回日本美術協会美術展覧会で宮内省に買い上げられた。

塚田秀鏡（二八四八〜一九一八）は江戸に生まれ、十五才で勝見完齋に入門し彫金を学ぶ。その後、加納夏雄に師事し、彫金と絵画の二人の師の名前から一字ずつ採って真雄齋と号した。明治十四年の第一回内国勸業博覧会やシカゴ万博（一八九四）をはじめ、内外の博覧会で受賞を重ね、大正二年（一九一三）に帝室技芸員に任命された。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治の彫金―海野勝珉とその周辺

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 41

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年九月二十三日発行

© 2006, The Museum of the Imperial Collections